

地域包括支援センターの役割の中で、今回は「ケアマネジャーへの支援」について取り上げさせていただきます。

「事例検討会」

毎年各務原市の地域包括支援センターで、各務原市にある居宅介護支援事業所のケアマネジャー向けに事例検討会を開催しています。例年、対面で実施していますが、新型コロナウイルス感染防止の為、今年度はオンライン（ZOOM）にて、7月8日（木）14：00～15：15で行いました。当日は、35箇所の事業所93名が参加されました。

コロナ禍によるいろいろな困りごとがあるなか、少しでもケアマネジャー支援という立場での事例検討会が出来たらと、主任ケアマネジャー一同で願い、居宅介護支援事業所のケアマネジャーから事例を提供していただき、

「介護者が新型コロナウイルスに感染した時、残された認知症利用者への支援をどうしたらいいか」というテーマで行いました。

◆ケアマネジャーの皆さんからの意見

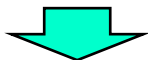
- ◎利用者が濃厚接触者となり、なんとか家族の支援で乗り切れたが、介護保険サービス以外で普段から社会資源を見つけておく事が重要だと感じた。
- ◎なんとか家族の対応で乗り切ったが、公的な関わりで助けていただける所はないかと思った。
- ◎困っているケアマネジャーがたくさんいて、ケアマネジャーが対応できるレベルの話ではなく、限界があるので地域ケア会議等を開いて行政に環境整備をお願いしたい。
- ◎家族全員がそれぞれの所に入院され、対応できる家族、親族が一人もない時の協力機関はあるだろうか？保健所と各務原市が連携してほしい。
- ◎家族も一緒に療養できないだろうか。
- ◎クラスターでデイサービスが休止となり、家族が仕事を休んで介護された事があった。
- ◎ケアマネジャーが全てできるわけでない。濃厚接触者となると多くの介護保険サービスは利用を制限される。保健所の方は、ケアマネジャーが全てやってくれろと思ってるのではないかな？

◆各務原市役所からの意見

- ◎今のところ抜本的な解決策はなく、公の環境整備がないなか、出来る事は、その都度個別の案件として、各務原市に相談してほしい。必要な機関に連絡調整の働きかけはさせていただきます。

◆各務原市在宅医療・介護連携支援ステーションからの意見

◎今回の事例については、ケアマネが 1 人で抱え込み対応していくようなケースではなく、各務原市全体で体制整備を考えていく必要のある事例でした。今後も各務原市役所や保健所へ働きかけながら、新型コロナウイルスの蔓延に備えた体制作りに取り組んでいきたいと考えています。



各務原市在宅医療・介護連携支援ステーションから追加報告

今回の事例検討会を受けて、7 月 13 日（火）午後、市役所高齢福祉課を訪問し、市職員と今後の対応について協議いたしました。市内では現時点において濃厚接触者でありかつ介護を要する方の対応可能施設は無い現状はありますが、その課題について県へ報告するとともに保健所へも高齢福祉課から働き掛けをしていくとのことで、こういったケースが起きた際は、まず高齢福祉課へ連絡を入れることになりました。

検討会后、事例提供者からは、「意見や助言をたくさんありがとうございました。各務原市では関係者の連携が進んでおり、今回も皆さんが温かい言葉で相談にのってくださり、1 人だけで悩まなくても良かったです。ただお世話する家族がない場合など、行政の相談窓口の 1 本化や環境整備もできるといいなと思いました」と実感したことを言われました。

このように、課題がみつかる有意義な事例検討会を、これからも企画・開催していきます。



地域包括の活動について、この通信について、など、ご意見お待ちしております。

電話058-371-2226 FAX058-371-8431（担当 長谷川・石川・林・中村）